

第3回

## 「まずいな」 濁流にのみこまれ、孤立した村 再興を託す 再エネ

有料記事

杉浦奈実 2023年7月3日 17時00分



森林組合の屋根に設置された太陽光パネル=2022年12月26日、熊本県球磨村、杉浦奈実撮影 



熊本県南部の球磨村で昨年12月、村森林組合の製材工場の屋根にぴかぴかの太陽光パネルを敷き詰める作業が進んでいた。

地域新電力「球磨村森電力」が屋根の上に無償で太陽光発電設備を設置、建物オーナーは発電された電力の利用料金を支払う。初期投資ゼロで、二酸化炭素(CO2)や電気料金を抑えられるのに加え、災害時や停電時には独立電源として利用できる。「オンサイトPPA」と呼ばれる事業だ。

施工した「IKEDA DENKI PV」(熊本市)の池田幸也顧問(72)は「屋根一面に、120キロワット分のパネルを載せる。電気代は、かなり減ると思います」と話した。工場には蓄電池も設置した。

人口3千人弱、総面積の9割近くを森が占める村。清流・球磨川が山あいを縫って光る。名物のアユ料理や川下りなどの観光など、村に恵みをもたらしてきた球磨川は日本三大急流のひとつだ。エメラルドグリーンの神秘的な流れは、時として牙をむく。

### 大水害で孤立した集落、長期間の停電

2020年7月、熊本を襲った豪雨によりあふれた濁流は、本流や支流に沿って並ぶ家屋や道路をのみ込んだ。村では、特別養護老人ホームの入居者など25人が亡くなった。

被災直後、村は全域で停電。村復興推進課によると、役場も燃料による自家発電に頼る状態が3～4日続いた。幹線道路の浸水や決壊などで、ほぼすべての集落が孤立した。担当者は「道路の寸断で燃料調達もできず、まずいな、という状況だった」。被災後の村外への避難もあり、国勢調査の人口は15年から20年に34%減った。減少率は全国の市町村で最大だった。

復興をめざす村は、エネルギー自給と脱炭素に取り組んだ。再び災害で地域が孤立しても、村内で電気をつくっていれば対応できる。担当者は「地球温暖化が激甚災害のひとつの要因という思いもあり、機運が高まった」と説明する。

実際に水害リスクは増している。気象庁によると、1時間80ミリ以上、3時間150ミリ以上、1日300ミリ以上の極端な大雨は、ここ10年平均で約40年前と比べてほぼ2倍に増えている。国土交通省の水害統計でも、熊本県の20年までの10年間の水害被害額は約4300億円で、福島県、岡山県に次いで全国3位だ。

村がパートナーに選んだのが球磨電だ。10年ほど前から森林組合に木質バイオマス蒸気ボイラーを設置するなど地域とのつきあいが深く、19年に連携協定を結んだ。去年は、村や森林組合とともに共同提案者となり、国の脱炭素先行地域に選定された。

先行地域は、太陽光発電設備については事業費の3分の2、蓄電池については4分の3という高い割合で国から交付金を受けられる。球磨電は事業の中心を担う。計画では、村の中心に近い3地区や全村有施設などで30年度までに福祉施設や水害による災害復興住宅の屋根、耕作放棄地などに合わせて約2500キロワット分のパネルを設置し、自家消費したり、村内に供給したりする。

福祉施設などは災害時の避難場所にもなる。エネルギーの地産地消によって、電気代が村外に流出せず、地域経済循環に貢献するという効果もある。計画初年度の22年度は、森林組合の工場に加えて小学校や保育園など5カ所に発電設備や蓄電池の設置を進めた。

## 電力利用は昼がメイン 中山間地の事情

地域には小水力やバイオマスなどの資源もあるが、太陽光を選んだのにはわけがある。村は都市部に比べて電力需要が少なく、電力利用は役場や学校、木材工場など昼間の施設がメイン。太陽光発電だけで需要を満たすことも可能だ。バイオマスは熱に利用すればいい。球磨電の中嶋崇史社長は「人口が少ない中山間地域では、成り立ちやすいモデル」と言う。

まずは村内の電力の大部分を消費する対象地域に太陽光発電設備を設置し、村内全体の民生部門需要の80%ほどの電気供給をめざす。「将来的には、村内で使う以上に発電して電気を村

外に売ることも可能」と、中嶋社長は考えている。

ほかにも、つくった電気でEVのスクールバスを走らせたり、ソーラーシェアリングで耕作放棄地を再生させたりするなど、長年の課題解決に夢を託す。

球磨村の取り組みは、同じ悩みを抱える多くの中山間地域にも広められる可能性がある。水害を今後どう生かすのか。松谷浩一村長は「同じような自治体の手本、先駆けになるのが、村の役割だと思っている」と言う。(杉浦奈実)

---

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.